

保田遊水地

防災と地域活性化など期待

国土交通省や県、川西町などは5月25日、同町保田に整備された「保田遊水地」の運用開始記念式典を開催した。大和川で初の内水、外水の両方に対応できる遊水地で保田地区の浸水被害を軽減。また平常時に活用する日本初の国際規格に準拠したインラインスピードスケート競技用オーバルトラックや、3人制のバスケットボールコートなどの設備を備え、防災だけでなく、関係人口創出や地域の活性化にも期待を寄せる。

大和川流域の遊水地は、安堵町窪田地区や川西町保田地区・唐院地区、斑鳩町三代川地区・目安地区の計5カ所で整備を予定。今回は、そのうちの一つの川西町保田地区の遊水地が完成した。

同遊水地は周囲に大和川や飛鳥川、曾我川が流れる

地区で、大雨時に洪水を貯留し、河川水位の上昇を抑える施設。大和川の水位が上がれば「越流堤」から遊水地内に流れる。また、地域に流れる保田川の水も「内水取入樋門」から取り

込める構造になっている。取り込んだ水は、河川の水位が低くなった際に、排水門を開き川へ戻す。

式典には、山下真知事や小澤晃広町長、高市早苗衆院議員をはじめ、地元自治会や行政関係者ら約70人が出席。オープニングでは地元の和太鼓チーム「風姿花伝」が演奏を披露した。

山下知事は「地域からの強い要望を受け、全国的にも珍しい内水と外水の両方に対応できる施設として整備された。地域を守り、地域に親しまれ、愛される場所になれば」とあいさつした。

続いて小澤町長が「保田遊水地が完成することで大和川流域の安全に川西が力になる。また地元の内水被害低減にも期待。平常時にはオーバルトラックを活用して地域の振興につなげていきたい」と述べた。

最後に越流堤の前でテープカットを行い、運用開始を祝った。

運用開始記念式典を開催



防災だけでなく地域の活性化にも期待される「保田遊水地」



大和川の水位が上がった際に水を取り込む「越流堤」



保田川の水を取り込む「内水取入樋門」



日本初の国際規格に準拠したインラインスピードスケート競技用オーバルトラック



3人制のバスケットボールコート



遊水地の運用開始をテープカットで祝った

地元のGMBが町へ、ベンチ寄贈 インラインスケート競技場周辺に設置



地元企業が町へベンチを寄贈

式典後には、GMB株式会社（川西町吐田・松岡祐吉代表取締役社長）が町へベンチを7台寄贈。ベンチはインラインスケート競技場周辺などに設置される。